

2021年度 事業報告

社会福祉法人 札幌この実会

2021年度事業報告

社会福祉法人 札幌この実会

2021年度も新型コロナウイルス感染症によって制約の多い暮らしが続きました。春からのアルファ株による「第4波」、続く夏場のデルタ株の影響による「第5波」、その後しばらく落ち着いていましたが、1月頃から感染力の強いオミクロン株が猛威を振るい「第6波」となりました。札幌この実会でも、感染者が発生(2月に利用者1名、3月には職員3名、いずれも関連なし)し、また濃厚接触者の立場になるケースも多くなりましたが、ルールに則り行動制限や衛生管理を徹底してクラスターに至らずに済みました。

将来展望への取り組みについては、検討の場を「みらい会議」としてスタートしました。全体像を探りながら、会議の進め方を確認しましたが、9月から現状の課題を時間軸で短期、中期、長期の三つに区分し、それぞれ中心になる担当の下でチームを編成して検討を進めることとしました。12月の理事会並びに評議員会において各チームの検討状況を報告したところ、課題の洗い出しから次のステップに移る時期ではないか、各チームがバラバラではなく、共通の課題として整理し直し、その上で取り組むべきではないか等の意見があり、その後の「みらい会議」で今後の進め方を整理し直し、次のとおり、改めての「目標」と「取り組みの5つの柱」を設定してその具体策に取り組むこととしました。

改めて「一人ひとりの幸せを願い、ライフステージに応じた適切な支援に取り組む」ことを目標に掲げ、次のⅠ～Ⅴを《取り組みの5つの柱》としてその具体策に取り組むこととする。

《取り組みの5つの柱》

- Ⅰ 利用者の幸せを目指した支援のあり方の再検討
- Ⅱ 利用者家族との関係性を深めるための試み
- Ⅲ 職員の資質向上を図り、信頼される職員集団を目指す
- Ⅳ 外部に開かれた運営を目指す
- Ⅴ 健全な運営基盤の強化策を検討する

また、福祉分野における人材確保については、年々厳しい状況になっております。その厳しい状況の中において、人材確保に向けた取り組みについては、求人サイトやハローワークへの求人掲載、介護・看護人材合同説明会への参加、インターンシップ・法人説明会等の採用活動を行い、その結果、随時の中途採用の他、2022年度新卒採用4名を確保することができました。2022年3月からは2023年度新卒の採用活動をとって「マイナビ2023」への求人掲載、北海道福祉人材センター主催の「福祉職場説明会」への参加等、2023年度に向けての採用活動に取り組んでいます。

1. 理事会・評議員会について

2021年度に実施した理事会並びに評議員会の状況は次のとおりです。

開催年月日	機 関	決議事項
2021年 5月28日	理事会	2020年度事業報告及び決算の承認
		【任期満了に伴う改選】 役員候補者の推薦 評議員候補者の推薦
		定時評議員会の招集
2021年 6月12日	定時評議員会	2020年度事業報告 2020年度決算の承認
		【任期満了に伴う改選】 次期役員の選任
2021年 6月12日	理事会	理事長の選定
		評議員選任・解任委員の選任
2021年 9月25日	理事会	給与規程の改定 リース期間満了に伴う車両の入れ替え(サポート)
		電気の契約の変更
2021年 12月11日	理事会	処遇改善に係る賃金改善規程の改定
		補償契約及び役員等損害賠償責任補償契約
		2021年度補正予算の同意 評議員会の招集
2021年 12月25日	評議員会	2021年度補正予算の承認
		新たな将来展望の検討
2022年 3月19日	理事会	2022年度事業計画及び収支予算の同意
		2022年度職員体制 諸規程の改定
		グループホーム用の車両の購入 契約の自動更新の承認
		評議員会の招集
2022年 3月26日	評議員会	2022年度事業計画の承認
		2022年度収支予算の承認

2. 評議員選任・解任委員会

評議員選任・解任委員会を2021年6月1日に開催し、候補者7名全員を評議員として選任することを決議しました。

3. 監事監査について

2021年度に実施した監事監査は次のとおりです。

第1回 2021年5月16日(紺野監事)、5月17日(小平監事)

第2回 2021年9月6日(紺野監事) 9月8日(平岡監事)

第3回 2021年12月1日(紺野監事) 12月2日(平岡監事)

第4回 2022年3月1日(紺野監事) 3月15日(平岡監事)

4. 事業指定について

2021年度における事業指定の変更は次のとおりです。

(4月)

この実支援センター、サービス管理責任者及び運営規程を変更

この実らいふネット、サービス管理責任者を変更

この実みなぼっけ、サービス管理責任者を変更

(10月)

この実みなぼっけ、サービス管理責任者を変更

(1月)

この実らいふネット、2住居定員変更(1増1減、事業所定員変更無)

5. 事業運営について

2021年度に実施した事業の運営状況は次のとおりです。

この実サポートステーション

■生活介護事業 この実サポートステーションすてっぷ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数)10,275人 (平均利用者数)38.1人

(平均区分)4.5

(体制)福祉専門職員配置等 重度障害者支援体制 食事提供体制 送迎体制

【基本方針】

・今年度の事業計画は道外や札幌市内でのコロナ克服の進捗状況に関わらず、一年を通して実施可能なものとして立案する。

➡ 計画立案時点では、当年度でコロナウイルスが収束に向かうものと楽観していましたが、5月と8月に生じた感染拡大のピークを予見できず、結果として計画されていた行事や保護者会等を中止または変更することになりました。

【重点目標】

●活動場所の環境と利用者の健康状態および身体機能に対して細心の注意をしていく。

➡ コロナ感染対策は前年度から継続して実施しました。感染の第6波によって2月以

降に利用者や職員にも陽性者が出ましたが、すてっぷでの感染拡大は防ぐことができました。

●きめ細かい「保護者ケア」を実践していく。

➡ 多くの保護者にとってワクチン接種は大きな関心事でしたが、接種の手続きや接種先の手配などについて丁寧な説明ができるよう心がけました。事業所内でコロナ陽性者が出た際にも、保護者に対して情報を的確に伝えた上で必要とされる対応をお願いしました。

【日中活動の概要】

はた・ら〜く

- ・生産活動については、後半以降に割り箸の封入の仕事が途絶えており、以降は箱折りの仕事のみとなっています。
- ・レクリエーションについては、前年度に活動場所を2分割して以降、実施できる活動が狭まってしまっており、年度を通してその改善を図ることができませんでした。
- ・運動機器を新たに導入して、活動場所での酸素運動をしてもらう機会を増やしています。

盤溪・森林農場

- ・草刈り、馬房にて使用する乾燥草作り、オオハンゴンソウの駆除等の環境整備に力を入れました。

【保護者との連携】

- ・保護者会については3回実施する計画でしたが、感染拡大に伴い11月末の1回のみの実施となりました。同時期に夏から延期されていた個別懇談も実施することができました。

【余暇活動および乗馬活動】

- 余暇活動:感染対策をした上で年間6種類の余暇活動を事業所内にて実施しています。
- 乗馬:落馬等の事故なく予定していた期間の活動を実施することができました。

【行事】

- ・事業計画では6月と9月に分けてグループ外出を行うことになっていましたが、5月の感染拡大により中止することになりました。その他の行事については計画に沿って実施できました。

■短期入所事業 りらつく

(定員)6人 (年間利用者延べ人数)826人 (利用者実人数)22人

(体制)栄養士配置 食事提供体制

- ・担当職員から保護者にこまめに連絡をとるようにして、できる限りその希望に沿えるように取り組みました。

・外部からの利用者については、コロナの感染状況を踏まえた上で、まん延防止等重点措置が解除されない間は受け入れを全て停止させてもらいました。

この実支援センター

新型コロナウイルスのまん延により、外部機関の利用や外出の制限、日中行事への影響が大きい一年でした。それに伴ってか、閉鎖的な生活を送る利用者の多くがストレスを抱え、イライラからくる小競り合いなども頻発していた印象です。日中活動ではストレス緩和や発散のため、自前でお菓子の売店(この実売店)を運営したり、月に一度は余暇的な行事を提供してきました。

■生活介護事業 この実支援センター おりーぶ

(定員)40人 (年間利用者延べ人数)9,605人 (平均利用者数)35.8人

(平均区分)4.5

(体制)福祉専門職員配置等 常勤看護職員等配置 重度障害者支援体制

食事提供体制 送迎体制

新型コロナ感染対策として「手洗い・うがいの徹底」「活動中の室内換気」「活動後の室内の拭き上げ」「送迎車両の消毒」「飛沫防止のパテーションの使用」など感染予防に取り組みました。また、通所者は公共交通機関の利用を警戒ステージに合わせて送迎に切り替えて行ないました。

転倒やケガの多い一年で、車の乗り降りや移動介助の仕方を見直し、全体で共有しております。公用車自体の事故はなく、安全運転という点では良かったのですが、乗降介助や歩行介助についての課題もあり、更なる改善が必要です。

椎茸作業については外作業ということもあり、例年と同じく作業に取り組むことが出来ました。収穫や販売については寄贈用であったり、年に数回ではありますがサテライト2・6の無人ワゴンで販売しました。

従たる事業所では室内の換気や消毒を行いながら下請けの割り箸封入作業や創作活動に取り組んでおります。コロナの影響もあり、割り箸の注文が減り封入作業が一時滞った時期がありました。1月に、木曽路の割り箸加工が海外で行なわれることとなり、それに伴い下請け作業が中断となっており再開のめどはたっておりません。

大友福祉振興財団の助成により、作業用の机や椅子を更新することができ、環境を整えることができました。又、清水基金の助成申請が通り、5月に10人乗りハイエースを導入、送迎の回数やルートに余裕が持てるようになっております。

■就労継続支援B型事業 この実支援センター うえるなつつ

(定員)15人 (年間利用者延べ人数)2,931人 (平均利用者数)10.9人

(体制等)福祉専門職員配置等 就労移行支援体制 送迎体制

施設外就労 施設外支援

令和3年度も新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。昨年度で経験したとはいえない利用者みなさんが「自分らしい生活」「自立した生活」が達成できるよう取り組んでいる支援者として、辛抱と我慢のなか活動をせざるを得なかった日々はジレンマに苛まれる1年でもありました。

新型コロナウイルス感染防止の取り組みとして、基本的には徒歩通所の方を除き、すべての方について公用車での送迎を継続しておりましたが、感染者数の減少とワクチンの2回目接種から2週間が経過したタイミングで通所の方に関しては公共交通機関を利用した通所を再開いたしました。

稼働日の土曜日利用について、感染状況によって一時的にグループ分けを撤廃いたしました。令和4年2月現在は作業場の密を避けるため再度、感染者の増加がみられたために再度、グループ毎の利用をお願いしております。

その他の作業に関してですが、日本仮設株式会社様での就労時間も3.5時間の短縮時間から5時間の通常作業時間に戻っております。

また、昨年11月よりBOOKOFF SUPER BAZZAR5号札幌宮の沢店様からの下請け作業を開始、今年2月からは同店舗への施設外就労を開始しております。久しぶりの新規作業ということもありとても意欲的に作業に取り組んでおります。

新規利用者についてですが、見学者や実習生が少なかったなかでも、1月に1名、3月から1名が利用開始となっております。

定着支援については月1度の定期面談を継続し、就労状況は極めて順調となっております。ただ、コロナ禍での余暇活動、人間関係の構築、職場内でのコミュニケーションの面ではまだまだ関わりが強く必要ということも感じており、引き続きその他の機関とも連携を取りながら支援を継続していく次第です。

コミュニティライフの実

新型コロナウイルス感染症対策として、「手洗い・うがいの徹底」「外出の制限」「マスクの着用」等の新しい生活様式で感染予防に努め、新型コロナウイルス感染症を施設から出さないことを念頭に置き活動を組み立てました。

新型コロナウイルス感染症の為、帰省や外出、通院など非常に制約が多く利用者、保護者、職員にたくさんの我慢を強いる1年でした。その中で、それぞれのホーム内で工夫して、利用者が落ち着いた生活が送れるよう支援を行いました。3月に職員の感

染により5つのホームが1週間の健康観察を行いましたが発症者は出ませんでした。

■ 共同生活援助事業 この実らいふネット

(定員)48人 (共同生活住居)9ヵ所

(年間利用者延べ人数)17,055人 (平均利用者数)46.8人 (平均区分)4.0

(体制)介護サービス包括型 福祉専門職員配置等 夜間支援体制

重度障害者支援職員配置 医療連携体制

利用者の中で、身体的な高齢化により支援から介護にシフトするケースが少しずつ増えてきており訪問リハビリテーションを増やすなどコロナ禍の中でも外部の社会資源を拡充する必要性が高くなりました。

帰省や、外出を制限する中で利用者の楽しみの活動を組み立てることが困難でしたが、感染者数の少ない時期に感染対策を行った上での外出を行いました。

1名が病気による退所になった事と、強度行動障害を持つ方が病気により支援の度合いが高くなった為それぞれ引越しを伴った体制の変更がありました。

■ 共同生活援助事業 この実みなぼっけ

(定員)19人 (共同生活住居)2ヵ所

(年間利用者延べ人数)約6,740人 (平均利用者数)18.5人 (平均区分)4.9

(体制)日中サービス支援型 福祉専門職員配置等 看護職員配置体制

重度障害者支援職員配置

■ 短期入所事業 この実みなぼっけ

(定員)1人 (年間利用者延べ人数)0人 (利用者実人数)0人

(体制)常勤看護職員等配置 栄養士配置 食事提供体制

日中を「みなぼっけ」で過ごす方については、週に1度は外出の機会を設けたり、清掃作業を、責任を持って行ってもらうなど楽しめる活動ややりがいのある活動を提供しました。

予定の変更が苦手な、重度の障がいを持った方が多いホームですが、新型コロナウイルス感染症の為、帰省の出来ない事が続く中でも特にパニックなどにならずに過ごすことが出来ていました。

身体的な高齢化による介護度が上がってきた為、介護用の車いすを導入したり、通所時間を遅らせるなどの対応を試行錯誤しています。

新型コロナウイルス感染症の流行により、外部との接触を避けるため短期入所の利用はありませんでした。

相談室みすくうえる

■特定相談支援事業 相談室みすくうえる

障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)163件

■一般相談支援事業 相談室みすくうえる

地域生活への移行に向けた支援(地域移行支援・地域定着支援)0件

平成31年4月、社会福祉法人札幌この実会「相談室みすくうえる」を開設し、3年が経ちました。

現在、契約件数は70名でサービス利用計画の作成や定期的(3ヶ月・6ヶ月)なモニタリングを主に行っています。今年度は、藻岩この実会より新規で40名受け入れを行い契約しています。その中で藻岩この実会のGHを利用していた利用者で食事が取れなくなり、病院を経て胃ろうとなり、大倉山学院(療養介護)へ利用となるケースがありました。他にも、新しく第2この実会の入所となるケース含め2名の計画相談の受け入れをしています。

その他では、神奈川県川崎市の相談室より、札幌市(西区平和)に引っ越されてくるケースがあり、新規で1名受け入れをし、自法人の就労継続支援B型(うえるなっつ)の利用へと繋げました。

藻岩この実会のほっと相談センターとは連携をとり、令和4年度にも何名かの利用者を受け入れる予定になっています。

今年度は他の事業所への訪問がほとんど出来なかったのですが、コロナの状況をみながらではありますが、対策をしっかりと取りながら訪問や連携が取れるようにしていきたいと思っています。

6. 地域における公益的な取り組みについて

2021年度はコロナ禍で取り組みは限定的となりましたが、外作業班による地域貢献活動、福祉除雪、清掃活動、及び福祉総合相談については、活動範囲・支援対象を狭めて行いました。

2021年度 決算の概要

社会福祉法人 札幌この実会

2021年度の事業活動計算では、法人合計(サービス活動+サービス活動外)で収益が約4億7646万円(※1)の一方、費用が約4億6424万円(※2)となり、経常増減差額はプラス約1222万円となりました。

(※1)…サービス活動収益・約4億7052万円+サービス活動外収益・約594万円

(※2)…サービス活動費用・約4億6039万円+サービス活動外費用・約385万円

次に当該差額に特別増減差額(マイナス約5万円)を加算した当期活動増減差額はプラス約1217万円となり、更に国庫補助金等特別積立金のマイナス約774万円と合わせて、純資産は前年度から約443万円増加して約9億9631万円となりました。

前年度に比べ、収益がプラス約1911万円(※3)の一方、費用はマイナス約280万円(※4)となり、経常増減差額は前年度のマイナス約969万円から約2191万円増加しました。

(※3)…収益増の主な要因

【障害福祉サービス等事業収益】…プラス約2564万円

(日中活動:プラス619万円、GH:プラス約1825万円、相談支援事業:プラス約119万円)

【経常経費寄附金収益】…マイナス約501万円

【その他のサービス活動外収益】…マイナス約227万円

(※4)…費用減の主な要因

【人件費】…マイナス約1068万円 【事業費】…プラス約389万円

一方、次の費用の合計でプラス約445万円

〔【事務費】、【就労支援事業費用】、【作業指導付帯費用】、【減価償却費】、
【国庫補助金等特別積立金取崩額】〕

また、【その他のサービス活動外費用】…マイナス約42万円

資金収支計算では、補正予算に比べ、事業活動資金収支差額がマイナス約92万円、施設整備等資金収支差額がプラス約139万円(※5)、その他の活動資金収支差額がプラス約756万円(※6)で、当期末支払資金残高はプラス約803万円の約1億7395万円(対前年度プラス約1747万円)となりました。

積立資産(退職給付引当資産を除く)は予算に基づく積み立て及び取り崩しを行い、約2億166万円(対前年度プラス約395万円)となりました。

(※5)…施設整備等資金収支差額増の主な要因

GH財産処分(SP)に伴う補助金返還:約100万円…2021年度に納付通知なし

(※6)…その他の活動資金収支差額増の主な要因

北海道民間社会福祉事業職員共済会退職金処理:退職給付引当資産取崩収入約748万円

また、2021年度の算定において、社会福祉充実残額(再投下可能な財産)は生じなかったことから、社会福祉充実計画の策定は不要となりました。

《2021年度の算定》

①「活用可能な財産」…326,560,339 円

②「社会福祉法に基づく事業に活用している不動産等」…0 円

※計算の特例適用

③年間事業活動支出…448,477,073 円

社会福祉充実残額=①-(②+③)÷▲121,910,000 円

2021年度決算資料(概要)

社会福祉法人 札幌この実会

■事業活動計算書

※1万円未満四捨五入

	本年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部			
収 益	4億7052万円	4億4910万円	2142万円
費 用	4億6039万円	4億6274万円	▲235万円
増減差額	1013万円	▲1364万円	2377万円
サービス活動外増減の部			
収 益	594万円	825万円	▲231万円
費 用	385万円	431万円	▲45万円
増減差額	209万円	395万円	▲186万円
経常増減差額	1222万円	▲969万円	2191万円
特別増減の部			
収 益	275万円	450万円	▲175万円
費 用	280万円	6万円	274万円
増減差額	▲5万円	444万円	▲450万円
当期活動増減差額	1217万円	▲525万円	1742万円

■貸借対照表

※1万円未満四捨五入

【流動資産】	1億8686万円	【流動負債】	1292万円
【固定資産】	8億5691万円	【固定負債】	3455万円
《資産合計》	10億4378万円	【純資産】	9億9631万円
		対前年度	443万円

■資金収支計算書

※1万円未満四捨五入

	予算	決算	差異
事業活動による収支			
収 入	4億7004万円	4億7646万円	▲642万円
支 出	4億4114万円	4億4848万円	▲734万円
収支差額	2890万円	2799万円	92万円
施設整備等による収支			
収 入	275万円	275万円	0万円
支 出	1514万円	1375万円	139万円
収支差額	▲1239万円	▲1100万円	▲139万円
その他の活動による収支			
収 入	621万円	1369万円	▲748万円
支 出	1328万円	1320万円	8万円
収支差額	▲707万円	49万円	▲756万円
当期資金収支差額合計	944万円	1747万円	▲803万円

支払資金	1億7395万円	対前年度 1747万円
積立資産	2億 166万円	対前年度 395万円

実績の推移



年間利用者延べ人数		実 績					見 込
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
サポートステーション	生活介護	10,829	10,366	10,123	10,230	10,275	10,300
	短期入所	1,181	1,041	1,015	813	826	800
この実支援センター	生活介護		9,922	10,055	9,540	9,605	9,600
	就労継続B型	13,350	2,742	3,179	3,061	2,931	3,400
この実らいふネット	GH	23,035	22,955	20,181	16,457	17,055	16,800
この実みなぽっけ	GH			2,169	6,745	6,740	6,700
	短期入所			54	28	0	0
合計		48,395	47,026	46,776	46,874	47,432	47,600

事業活動計算		決 算					当初予算/加工
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
サービス活動収益		396,237,789	405,738,362	420,223,722	449,098,618	470,522,908	468,890,000
サービス活動外収益		8,371,662	5,699,839	5,198,446	8,254,685	5,941,145	4,766,800
収益合計（除・特別）		404,609,451	411,438,201	425,422,168	457,353,303	476,464,053	473,656,800
サービス活動費用		421,755,765	412,504,467	439,336,361	462,741,494	460,390,975	480,988,572
サービス活動外費用		5,571,688	4,933,243	4,577,128	4,306,620	3,853,929	3,855,000
費用合計（除・特別）		427,327,453	417,437,710	443,913,489	467,048,114	464,244,904	484,843,572
経常増減差額		-22,718,002	-5,999,509	-18,491,321	-9,694,811	12,219,149	-11,186,772
特別増減差額		-12,421,619	-201,839	-4,722,198	4,444,801	-51,181	0
当期活動増減差額		-35,139,621	-6,201,348	-23,213,519	-5,250,010	12,167,968	-11,186,772

人件費	294,446,043	283,374,401	297,837,719	322,584,436	311,900,680	330,062,200
業務委託費			4,004,000	12,012,000	12,012,000	12,012,000
人件費合計	294,446,043	283,374,401	301,841,719	334,596,436	323,912,680	342,074,200

積立資産（年度末残高）	196,405,150	197,728,000	182,944,000	197,708,000	201,659,000	197,488,000
人件費積立資産	40,700,000	38,700,000	29,500,000	87,300,000	87,300,000	78,700,000
修繕積立資産	14,800,000	10,800,000	9,300,000	12,300,000	12,800,000	12,800,000
備品等購入積立資産	7,800,000	7,700,000	8,400,000	10,400,000	9,316,000	9,316,000
減価償却積立資産	113,372,000	122,628,000	122,244,000	55,308,000	60,843,000	65,272,000
建設積立資産	17,100,000	15,400,000	10,800,000	29,700,000	28,700,000	28,700,000
工賃変動積立資産		200,000	400,000	400,000	400,000	400,000
設備等整備積立資産		300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
その他の積立資産	2,633,150	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000

人件費積立資産	40,700,000	38,700,000	29,500,000	87,300,000	87,300,000	78,700,000
対前年度増減	-19,000,000	-2,000,000	-9,200,000	57,800,000	0	-8,600,000